

第3回

北海道大学の鉄筋コンクリート造黎明期の建築

北海道大学大学院教授

角 幸博

北海道大学（以下北大）札幌キャンパスには、多くの歴史的建造物がみられます。それらはいずれも北大歴史的建造物として登録し、今後も維持管理していく方針です。キャンパス内の歴史的建造物には、建築遺産トレールの解説



農学部本館

板があり、それらに沿って建築巡りをするのもできます。

関東大震災（1923年）を機に、北大でも耐震・耐火の鉄筋コンクリート造（以下RC造）建物への関心が高まりました。1929年完成の理学部本館（現総合博物館）は、当時の札幌でも最初期の大規模RC造建築で、その後のRC造によるキャンパス施設整備を方向づける一大事業でもありました。

総合博物館（旧理学部本館）はRC造3階建、「超モダンな偉容」（北海タイムス）として注目される建築でした。設計は北海道帝国大学営繕課（萩原惇正^{あつまさ}）、施工は大星三松^{おほしさんまつ}（讃平）です。スクラッチタイルの外観には、軒下の小アーチ列や窓上部の半円アーチなどロマネスクの要素、正面車寄せの尖りアーチにはゴシック意匠がみられます。階段室上部のリブヴォールト空間は「アインシュタイン・ドーム」と愛称され、この建物の見所の一つです。1999年から総合博物館として活用され、内部展示も充

実しています。

農学部本館は1936年完成後、1951・1960年にかけて増築されました。RC造5階、地下1階塔屋^{とうや}付で、北海道帝国大学営繕課（萩原惇正、岡田鴻記）設計、大倉土木株式会社の施工です。竣工間もない1936年の陸軍特別大演習では大本営および行在所として使用され、3階部分は天皇の御座所、寝室、食堂などに使用されました。2008年にPFI事業により大改修が行われ、中央主屋や外部形態、歴史的内部空間を保存しつつ、教育・研究用の最新機能を組み込みました。この改修は、2010年にBELCA賞（ロングライフ部門）を受賞しています。

旧北海道帝国大学予科教室であった事務局本館は、第1期（西棟）1935年、第2期（東棟）1937年に竣工し、1960年から現在まで事務局本館として利用されています。設計は北海道帝国大学営繕課（落藤藤吉）、施工は、第1期東山礦三、第2期は沖津組でした。外壁は理学部本館や農学部本館と同じスクラッチタイル張り、戦時体制下で装飾は極力抑えられています。当時の新聞には「樺色^{かばいろ}の煉瓦で化粧された直線美を表現する ムシロ豫科^{よか}にはモットイナイ位のもの」（北海タイムス）と紹介されました。